

学習ポイント 1

立場を決め、理由を示し、異なる考えに応える

意見文では、賛成か反対かだけでなく、なぜそう考えるかが大切です。身近な場面をもとに、理由と具体例をつなぎ、別の立場も尊重して考えを伝えましょう。ここにある学校や提案はすべて学習用の設定です。

目標 主張・理由・具体例の役割を区別し、筋道を立てて書く。／異なる立場の利点や心配を正確に捉え、敬意をもって応答する。／目的と読み手に合わせ、実行可能な条件付きの提案にまとめる。

1 何についての立場かを示す

最初に論題を確かめ、何に賛成し、何に反対するのかを書きます。必要なら「この条件なら賛成」と立場を限定できます。

例 「賛成だ」だけでなく「昼休みに相談席を設ける案に賛成だ」と書く。

例 「毎日反対だが、週に一日試す案には賛成だ」と条件を示す。

2 理由と具体例をつなぐ

理由は主張を支える説明、具体例は理由を分かりやすくする場面です。同じ主張を言い換えるだけでは理由になりません。

例 主張：連絡には紙も残したい。理由：端末が使えない場合にも確認できるからだ。

例 仮の例：充電切れの日でも、紙があれば持ち物を確かめられる。

学習ポイント 2

立場を決め、理由を示し、異なる考えに応える

3 事実を作らない

資料にない数値や、実際には経験していない出来事を、事実として書いてはいけません。想定例は「例えば」「もし」で示します。

例「全員が賛成している」は、確認できる資料がないと書けない。

例「例えば、通信が止まった場合には」と、仮定の場面として説明する。

4 反対意見を強く正確に捉える

相手を悪く決め付けず、相手が大切にしている点を考えます。もっともな心配を取り上げるほど、自分の考えも深まります。

例「反対する人は自分勝手だ」ではなく「静かに読みたい人への配慮が必要だ」。

例「確かに、紙を使わなければ配布の手間は減る」と利点を認める。

学習ポイント 3

立場を決め、理由を示し、異なる考えに応える

5 反論には理由や対策を添える

「しかし私は違う」だけでは応答になりません。相手の心配を和らげる方法、優先する理由、残る課題を具体的に示します。

例 声が気になる → 席を離し、静かに読む区域を確保する。

例 対策が難しい → まず別室で試し、結果を比べる。

6 結論を条件と結び付ける

結論では、話し合った理由と対応を踏まえて提案します。二者択一を無理に選ばず、時期・範囲・見直し方を条件にしてもよいでしょう。

例 一か月試して利用者の声を聞き、継続を決める。

例 希望を優先しつつ、偏った役割だけ相談して調整する。

原稿欄の使い方

字数条件は使用マス数で確認

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来的时候は、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

数え方の例 2段落で30マス

	朝	の	校	庭	を	歩	い	た	。											20
	空	気	が	澄	ん	で	い	た	。	30										

1段落目の残り10マスと、各段落の初めの空き1マスも数えます。最後の文の後の空きは数えません。

取り組み方と参考資料

全10問 | 基礎4問・標準3問・応用3問

学習ポイントを確認してから、問題の問1～7で部分練習をし、問8～10でまとめた作文に取り組みます。構成メモ → 本文 → 条件確認 → 書き直しの順に進めましょう。

解答解説の文章は一例です。経験や立場が異なっても、問いと条件に合い、理由や根拠が読み手に伝われば認められます。各問の確認基準は、この教材の学習用の目安です。全国共通の入試採点基準ではありません。

教材の対象は中学3年生です。基礎から高校入試を意識した短い作文まで段階的に練習します。時間配分や段落構成に、すべての作文に共通する唯一の正解はありません。

本文を書く原稿欄は1マス9mm、短い回答や構成メモの罫線は1行10mmです。原寸（100%）で印刷すると、この大きさに使えます。

すべての例文・設問・作文例・資料は、本教材のために作成したオリジナルです。表の数値や調査は架空であり、実在の学校や社会全体の傾向を示すものではありません。特定の入試問題や教科書本文は転載していません。

学習範囲の参考資料

文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編

第3学年「書くこと」（冊子120～123ページ）を学習目標の確認に使用。例文・設問・資料は転載していません。

資料確認日 2026年10月8日。資料名から文部科学省の資料を開けます。